

私は以前、全日制の高校に勤めていたことがあります。その時のことですが、授業中に大きな音を立てて、複数のバイクが学校の前の道を走ることがありました。暴走族のような感じでした。最初のうちは生徒たちも面白がって、授業中でしたが窓のところまで行き、バイクが走るのを見ていました。しかし、何回目かになると、だんだんと生徒たちももう見なくなりました。

そんな時、ある女子生徒が授業中に言いました。「先生、あれ、うちの学校をやめた子らやで。それと中学校を出て、高校に行かれへんかった子らもおるわ。」

私はその時はまだ若く、ベテランの生徒指導の先生に、「なんで学校の前をバイクで走るんですかねえ？」と尋ねたことがあります。そのベテランの先生はこう言いました。「あいつら、さびしいんねん。バイクのブン、ブンという音は さびしい、さびしいっていう音や。」

別の話です。同じ全日制の高校で1年生の担任をしていた時、私のクラスで一人の女子生徒が学校をやめたいと言ってきました。その生徒と何回も話しをして、学校をやめないように説得しようとしていました。でも、その甲斐なく、その生徒は退学しました。

それから5年後、その学年が卒業してのちに、1年生のクラスの同窓会を開きました。みんな20歳になっていました。退学したその女子生徒も同窓会に来ていました。驚いたことに、彼女はもうお母さんになっていて、小さい子どもを連れて来ていました。

その生徒は私のところに来て言いました。「先生、うちが学校やめるって言った時、なんでもっと一生懸命止めてくれへんかったんよ。」私は言いました。「止めたよ。」彼女は「いや、一生懸命さが足らんかったと思うわ。」と言いました。私がなぜ今頃そんなことを言うのか尋ねると、彼女は「先生、うち高校やめて初めてわかってん。高校に行ってない子からしたら、高校って夢みたいなところやで。行事とかあるし、しゃべれる人おるし。」

みなさんの中には全日制の高校をやめて、定時制に来た人もいますし、全日制に行けなくて定時制に来た人もいます。私が考えたことは、ここにいるみなさんの中にも、寂しい思いをしている人がいるのではないかということです。

しかし、先生たちはみなさんに寂しい思いなんかを絶対にさせないでおこうと思っています。先生たちはみなさんがこの寝屋定で高校生活を満喫することを望んでいます。みなさんがこの寝屋定できちんとした、楽しい高校生活を送ることを願っています。

ここは、みなさんの高校であり、みなさんの母校です。高校生活を十分に楽しんでください。きちんと授業を受けて、行事、部活に頑張ってください。

今日から後期が始まります。10月には文化祭である明月祭、11月には球技大会である明月杯がありあます。また、毎日の授業があります。授業を一生懸命に受けてください。

今、授業をきちんと受けて、行事や部活に参加している人も多いと思います。それでいいです。そのまま、その調子で頑張ってください。高校を卒業して数年たった時、それがいかに大切な時間であったかを実感できると思います。

みなさん、頑張ってください。